

2018 年度事業報告

1. 荒川クリーンエイドの運営

【事業の概要】

荒川水系全体で荒川クリーンエイドを運営した。特に荒川下流部においては、新たな活動地を開拓するなどして実施範囲の拡大に努めた。2018 年は荒川下流域の約 30%の河川敷で活動が実施された。ごみを拾うだけでなく、参加者が河川ごみによる環境負荷や発生原因等について学び、日頃からできるだけごみを生まない生活を実践するような啓発を充実させた。

【主な実施事項】

① 清掃活動（調べるごみ拾い）

2018 年も、荒川流域において清掃活動の実施と支援を行った。194 会場がエントリーし、173 会場で実施、延べ 12,910 人が参加した（2018 年 1 月～12 月）。

② 感謝状の発行

実施団体 101 団体に対し、3 月に感謝状を発行し、活動参画の証しとともに感謝の意を表わした。

③ 体験・説明会の開催

8 月 26 日(日)に体験・説明会、4 月 22 日(日)、10 月 8 日（月・祝）に体験会を開催した。初めて実施する団体、キャプテンや担当者が交代する団体には参加を要請し、運営方針や実施方法の周知を図った。

④ 主催・共催会場の運営

11 月 3 日(土)にふるさと清掃運動会実行委員会、6 月 3 日(日)、12 月 9 日(日)に豪田ヨシオ部等との共催活動を運営した。マラソン大会参加者、サイクリング関係者等荒川利用者団体、その他若い世代に向け荒川クリーンエイドを普及させた。

⑤ 実施の運営サポート

実施団体の要望に応じて、企業等を対象に実施の運営サポートを行った（約 40 団体）。

⑥ 「ごみをできるだけ生まないライフスタイル」の啓発 ～マイボトル持参の呼びかけ～

河川ごみの自然環境への悪影響や、ごみをできるだけ生まないライフスタイルについて考える機会を提供することを目的にマイボトルの持参を呼びかけた。

⑦ 河川敷利用者への啓発

マラソン団体、サイクリング団体等と連携し、河川敷利用者の河川美化意識を醸成した。走る広告塔「あらくりくん号」を委託製作（UPS 基金による支援）した。

⑧ 効率的な河川ごみの回収に向けた取り組み（三井物産環境基金）

河川ごみが溜まるメカニズムを調査し、より効率的な河川ごみ回収を目指す取り組みを継続した。

2. 生物多様性の保全

【事業方針】

里川創造プロジェクトについては、国土交通省荒川下流河川事務所の「荒川下流自然地管理アダプト制度」に協力し、荒川クリーンエイドを中心に、楽しみ、学びながら都市の自然を守ることを目指し、他の市民団体、学校、企業等と連携して自然地の環境保全と普及啓発を進めた。

絶滅危惧種の復活プロジェクトでは、行政や地域の市民団体と連携して環境の再生活動を行った。

【主な実施事項】

① 里川創造プロジェクト

江戸川区小松川自然地においては、「里川小松川自然地協議会」の構成団体として、地域の市民団体や学校、企業と協働し、クリーンエイド、外来種の除草、自然環境教室等、自然地の環境保全とその普及啓発を推進した。荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、国土交通省と連携して実施した。

足立区千住桜木地区においても、荒川下流自然地管理アダプト契約を結び、クリーンエイド活動を中心に、環境保全活動を行った。

また、その他の地域についても、荒川クリーンエイド実施団体の要望に応じて、外来種の除草を行い、生物多様性の保全活動を推進した。

② 絶滅危惧種の復活プロジェクト

荒川河川敷のヒヌマイトトンボの成虫の生息場保全を目的に、行政、地域の市民団体等と連携して、生息環境の整備、および同種の生息個体数のモニタリングを合計 11 回実施した。

また、トビハゼ（環境省 NT、東京都 IA 類）の生息地保全活動として、損害保険ジャパン日本興亜株式会社協賛による SAVE JAPAN プロジェクトを開催した。

3. 環境教育の推進

【事業方針】

荒川クリーンエイド実施団体や地域の団体と連携しながら、人々が河川ごみの問題について学び、環境保全意識を高められるよう、荒川をフィールドとした環境教育を推進した。

人財育成プログラムについては、若者層への啓発の機会として、新入社員研修を中心に、社会性の向上・環境意識の醸成等を付加しながら実施した。

【主な実施事項】

① 学校教育の支援

小松川自然地・里川創造プロジェクトの一環として、小学校の総合学習の支援を行った。また、OLTVECTS と連携し、電子環境教育教材-地球そのなかを探ろう「荒川ステージ」-を継続して製作中である。

② 人財育成プログラムの実施

チームビルディングを体験しながら河川ごみの環境負荷について学ぶ「環境に悪いごみ拾いゲーム」を中心に、プログラムをブラッシュアップし、新入社員研修を実施した。

③ 自然環境教室の開催と支援

クリーンエイドの一環として、希望する企業に対し、自然環境教室のプログラム運営を行った。

④ 海洋プラスチック汚染問題について考えるシンポジウムの開催

東京海洋大学兼廣晴之名誉教授を招聘し、海洋ごみ問題について考えるシンポジウムを 9 月に NPO 法人 えどがわエコセンターと共催した。

4. 水質調査の実施

【事業方針】

身近な水環境のモニタリングを通じ、水環境への関心を高めることを目的に、6 月の「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。

【主な実施事項】

① 「身近な水環境の全国一斉調査」への参加

荒川本川及びその支川、流域の川や池等での調査協力者を募集し、6月3日（日）を中心に、17カ所で調査を実施した。その調査結果を取りまとめ、全国水環境マップ実行委員会に提出した。調査項目は化学的酸素要求量COD（低濃度）とした。また、12月に開催された同実行委員会に参加し、調査活動の展開や運営等について協議した。

5. 流域連携

【事業方針】

荒川流域内の交流と、流域の課題の共有を目的に、源流域、中流域、及び下流域の団体と連携した活動を推進した。

【主な実施事項】

① 荒川流域再生プロジェクトへの参加

2019年3月NPO法人荒川流域ネットワークが中心に運営する「荒川流域再生シンポジウム」を共催し、流域連携を進めた。

② 埼玉県河川環境団体連絡協議会や川の再生交流会へ理事が参加

埼玉県内の河川団体が加盟する埼玉県河川環境団体連絡協議会（埼玉河連）や2月に開催された「埼玉県・川の再生交流会」（主催：埼玉県）に参加、パネル出展し、連携を図った。

③ 荒川自然懇談会を通じた荒川下流河川事務所との協働

2月に、当フォーラム会員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で、官民協働で開催された「荒川自然懇談会」に出席し、荒川の自然回復に向けた意見交換を行った。

④ 秩父森づくりの会の定例活動

源流域との交流を引き続き行っていくため、秩父市森づくり課が運営する「秩父森づくりの会」に入会した。2018年度は荒天中止が重なったため参加は叶わなかったが関係を継続した。

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

【事業方針】

全国の川や海で活動する団体とつながって河川ごみ問題の解決、発生抑制に取り組むことを目指し、業界団体、行政が進めるごみの発生抑制に向けた啓発に、データ提供等を通じて協力した。また、全国川ごみネットワークやの催事等に参加した。

【主な実施事項】

① 関連団体との連携

日本プラスチック工業連盟主催講演会での講演および情報共有、全国川ごみネットワークの催事等に参加した。

② 海ごみとの連携 ～一般社団法人 JEAN との連携～

国際調査期間の荒川クリーンエイドのごみ調査結果を JEAN に提供した。調査データは国際海岸クリーンアップ (ICC) キャンペーンに報告され、世界の海洋ごみ調査と世界の海ごみ問題の解決に貢献した。

③ 海外との交流

(一財) 国際協力推進協会が受託する国際交流事業に協力し、ミクロネシア連邦からの視察団を受け入れた。

7. 広報・情報発信

【方針】

各種情報媒体で、主に次の目的の広報・情報発信活動を展開した。

- ・荒川クリーンエイドへの参加者・賛同者を増やす。
- ・会員・関係者間のコミュニケーションを促進し、情報や運営方針の共有を図る。
- ・河川ごみの発生抑制を目指し、調査データ等を活用した情報発信を行う。

【主な実施事項】

① Web サイト

ママボラン (パーソルホールディングス) へ委託し、見やすい Web サイト作りに努め、随時更新した。

② ニュースレター

会員・関係者との情報共有を図るべく、8月と2月に2回発行した(累計1,000部)。

③ Eメールニュース (メールマガジン)

毎月初めに(年12回)配信し、各月の旬のニュースを届けた(各回約1,000名に配信)。

④ 報告集

ごみの調査データや活動の結果を集約した報告集を3月に発行した(1,200部)。会員、行政、関係者および情報拠点等に配布した。

⑤ ポスター、リーフレット

実施団体が秋のクリーンエイド参加者を募集するツールとしてポスター700部、リーフレット1万部を作成した。実施団体、沿川自治体などに活用いただいた他、情報拠点や荒川下流河川事務所の協力により、駅のラック等にリーフレットを配置いただいた。

⑥ ソーシャルメディア

Facebook や Twitter を活用してタイムリーな話題を随時提供し、荒川クリーンエイドや河川ごみ問題へ

の関心を高めた。若い世代の参加者獲得を目指すべく、宣伝キャラクター（萌えキャラ）の展開などで広報強化を図った。

⑦ イベント出展

6月江戸川区環境フェアに出展し、荒川クリーンエイドへの参加の促進、河川ごみの発生抑制につながる情報発信を行った。また、荒川クリーンエイド実施団体や情報拠点等が、イベント等で荒川クリーンエイドや河川ごみ問題について効果的に情報発信できるよう、パネル、紙芝居等の貸し出しを行った。

⑧ セミナー開催、外部講演

兼廣春之東京海洋大学名誉教授を招聘し、プラスチックに関する知識やごみ問題の最新の知見などを学ぶ勉強会を7月に開催した。

4月、あきしま環境緑化フェスティバル、8月表浜 BLUE WALK2018、11月フジ TVCSR 報告会、3月日本プラスチック工業連盟主催講演会等にて講演し、河川/海洋ごみ問題等の情報発信を行った。

⑨ テレビ出演

バンキシャ！やフューチャーランナーズにて荒川クリーンエイド活動紹介、河川・海洋プラスチックごみの現状などについて伝えた。

8. 組織運営

【方針】

報告会及び連絡会を通じて、会員等とのコミュニケーションを活性化し、また、理事・運営委員会を通じて、より円滑な組織運営を図った。

【主な実施事項】

○報告会・連絡会の開催

2月に報告会を開催し、活動の成果等について会員・関係者等と共有した。また16団体に功労者賞を贈呈した。報告会に併せ、会員・関係者と活動に関する情報を共有し、意見交換する連絡会を開催した。

○理事・運営委員会の開催

総会議案、人事等について協議・決定するため理事・運営委員会を5回開催した。

○ファンドレイジング（資金調達）

自主事業を積極的に進め、自主財源基盤の強化に努めた。

お宝エイドやソフトバンクのつながる募金を活用し、気軽に寄付を受けられる態勢をとった。

2018 年度活動概要一覧

事業	活動名	実施月・会場等	概要
1 荒川ク リーン エイ ドの運 営	荒川クリーンエイド 2018	4月～3月	実施約 190、のべ 1.3 万人参加
	説明会・体験会	8月 足立区生涯学習センター 4月、10月下平井水辺の楽校	活動の趣旨・実施方法の説明等
	主催・共催会場の運営	6月,12月 11月 3月 9月	豪田ヨシオ部と共催 ふるさと清掃運動会と共催 グッドチャリズム宣言と共催 あちこちクリーンエイド主催
	啓発	クリーンエイド実施時、イベント時等	マイボトル持参、エコライフのすすめ
	実施サポート	随時	企業、学校等の依頼に応じて随時
	効率的な回収(*)	随時	現地調査
	2 生物多 様性 の保 全	里川創造プロジェクト	随時
絶滅危惧種の復活プロジェクト		5月～3月	地域団体、自治体等と連携して実施
3 環境 教育	学校教育の支援	小松川自然地	沿川の小学校の環境学習支援
	人財育成プログラム	随時	新入社員研修、プログラム開発
	自然環境教室の開催と支援	随時	クリーンエイドの後に希望に応じて開催
	海洋プラスチック汚染問題について考えるシンポジウム	9月	東京海洋大学兼廣名誉教授の講演のほか、パネルディスカッション
4 水質 調査	身近な水環境の全国一斉調査	6月	水質調査 (17カ所)
		12月	全国水環境マップ実行委員会出席
5 流域 連携	荒川流域再生プロジェクト	3月	シンポジウム
	埼玉川の再生交流会	2月	参加、パネル出展
	荒川自然懇談会	2月	市民団体、河川事務所と協議
6 他セ クター や全 国・世 界と つな がる 活 動	関連団体との連携	3/18,9/9-10 随時	日本プラスチック工業連盟、全国川ごみネットワーク
	一般社団法人 JEAN との連携	随時	調べるごみ拾いのデータを提供 他
	海外との交流	7月	ミクロネシア視察団受入
7 広報・ 情 報 発 信	ホームページ、Facebook	随時	随時更新
	ニュースレター	8月と3月に発行	各 1,000 部制作配送
	Eメールニュース (メールマガジン)	毎月初め	各回約 1,000 人に発信
	報告集	3月発行	1300 部制作
	ポスター、リーフレット(*)	8月発行	ポスター7百部、リーフレット1万部。参加者募集
	イベント出展	6/3月	江戸川区環境フェアに出展
	セミナー、外部講師	7月他	兼廣春之東海大学名誉教授によるプラスチック学習会他
8 運 営	第 19 回定期総会	5月 北とびあ	昨年度事業報告、当年度事業計画の協議等
	報告会・連絡会	2月 北とびあ	クリーンエイド 2018 成果報告、意見交換等
	理事会・運営委員会		合計 5 回開催

(*)は助成金事業としての取組